



薬師堂天井画「羯鼓を奏する飛天」



薬師堂厨子(市指定文化財)

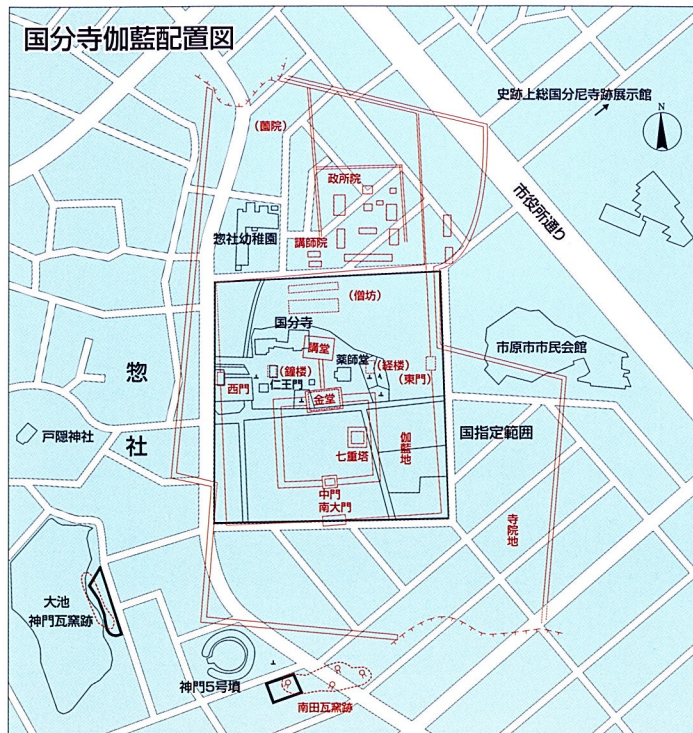


将門塔(市指定文化財)



国分寺薬師堂(市指定文化財)

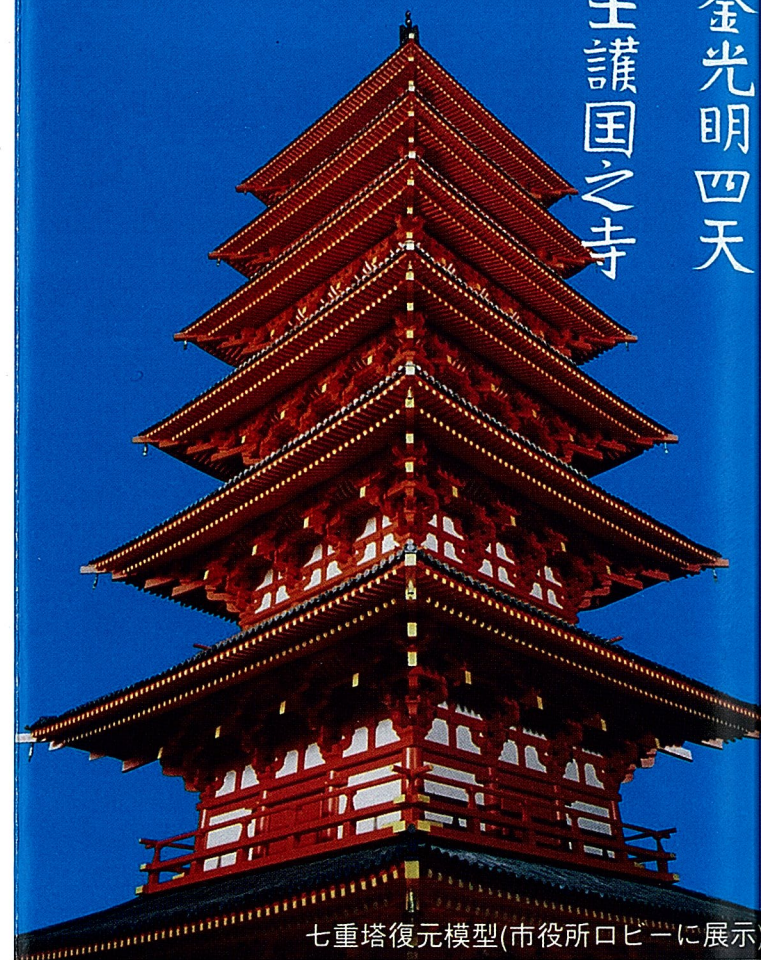
国分寺伽藍配置図



交通／館山自動車道市原インターチェンジから車で5分。JR内房線五井駅より小湊鉄道バス市役所行にて「国分寺入口」・「市役所」下車、徒歩5分。
 問い合わせ先／市原市教育委員会ふるさと文化課 ☎0436-22-1111(代)
 〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1
 国分寺 ☎0436-21-0754 〒290-0023 市原市惣社1-7-23

天平のランドマークタワー 国分寺七重塔

王護国之寺
金光明四天



七重塔復元模型(市役所ロビーに展示)

国指定史跡

上総国分寺跡

国分寺の建立

国分寺は、今から千二百五十年ほど前、聖武天皇の詔によって、国の平和と繁栄を祈るために全国六十カ所余りに建てられた僧寺と尼寺からなる国立寺院で、地方の仏教や文化の中心となりました。上総国分寺は、その中でも規模が大きく、伽藍も良く整った代表的な国分寺といわれています。

国分寺の建立は、天平時代の社会不安や政局の混乱を、仏教の力で鎮め、人心の統一を図ろうとしたもので、「金光明最勝王経」の教えに基づく僧寺と「妙法蓮華経」に基づく尼寺を国ごとに置きました。「金光明最勝王経」は、この経を敬い、国土に読み広める王があれば、四天王が常に来て守護し、災いを除いて至福をもたらすと説いています。この教えに基づく僧寺を「金光明四天王護国寺」と称しました。

上総国分寺の寺域は、北東と南西で谷や古墳を避けているため四角形ではなく、南北478m東西が北辺で254m、中央で345m、南辺で299mを測り、面積は13.9万㎡におよび、武蔵・下野の国分寺に次ぐ大きさです。いわゆる七堂伽藍と呼ばれる主要な堂塔を配置した伽藍地は、南北219m・東西194mで、ほぼこの地域が国指定史跡として保存されています。

主要伽藍の周りには、堀を巡らし、東西南北に門が開いていました。伽藍配置は、南大門、中門、金堂、講堂が南北に並び、回廊に囲まれた金堂前庭の東に七重塔を配するのが特色です。藤原京の大官大寺に類似する伽藍です。詔に「造塔の寺は国の華」とうたわれているように、七重塔は国分寺を象徴する最大の建造物でした。

主要伽藍地の北東には政所院（東院）、北西には蘭院、伽藍中心軸上には講師院などの付属施設が配置されていました。ほかに綱所、経所、油菜所などの施設があったことが、墨書土器の出土によってうかがえます。

現代の国分寺

古代の国分寺跡の中心部には、医王山清浄院国分寺が現在も法燈を伝えています。本尊の薬師如来を祀る薬師堂は、江戸時代の中頃、正徳六年（1716年）に書かれた国分寺「再造之縁起」によると、僧侶「快應」によって再建されたものです。

薬師堂は、桁行三間、梁間三間のいわゆる三間堂といわれる形式で、正面に一間の向拝（庇）が設けられ、屋根は茅葺きの入母

屋造りで、内部は格子戸によって内陣と外陣に分けられています。

内陣中央間の天井は、角材を格子に組んで板を張った格天井で極彩色の文様が配されています。外陣中央間の天井には、登り下り一對の龍が、脇間の天井に大皮・笙・横笛・羯鼓を奏でる極彩色の飛天がそれぞれ描かれています。また、内陣の須弥壇に置かれた厨子は建物より一段と格調が高く、手の込んだ唐様に作られ、厨子正面扉には判肉彫彩色の登り下り龍が、須弥壇うしろの来迎壁にも繊細な筆致で、飛雲と蓮華が金箔・朱・緑などの極彩色で描かれています。

建築部材に書かれた墨書の中には、快應の他にも、地元惣社村の大工棟梁の小三郎など地元職人の他に、飯櫃村（芝山町）や牛熊村（横芝町）の遠方の職人の名も見られ、11人の職人が携わったことが分かっています。

国分寺西正面の仁王門は、建築様式から江戸時代中頃の十八世紀の建立と考えられます。正面両脇の金剛欄の中には、右側に阿形・左側に吽形の仁王像が安置され、特長から吽形像は江戸時代に、阿形像は鎌倉時代後期の作と考えられています。

この仁王門の手前右側に「将門塔」と伝えられる「応安第五壬子十二月三日」（1372年）の銘文を刻む宝篋印塔があります。もとは菊間字北野に所在した新皇塚古墳の隣接地にありました。塔身や相輪は復元したもので、石質は安山岩、総高2.45mを測ります。

市原市では、この上総国分寺跡と尼寺跡の史跡整備を行っています。尼寺の整備では、中門や回廊の古代建築物や金堂基壇を復元し、史跡内には国分寺を分かりやすく解説した展示館が開館しています。国分寺では西門跡の基壇整備（平成5年度完成）を行い、今後は引き続き全体の整備を進めて行く予定です。



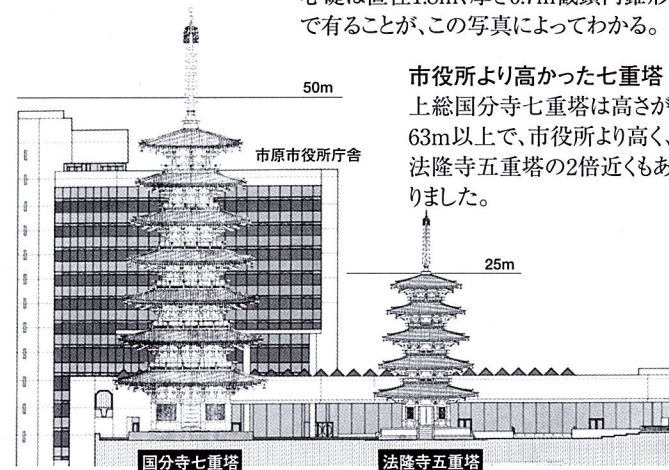
国分寺跡、尼寺跡出土の灰釉陶器など



上総国分寺復元模型（千葉県立中央博物館所蔵）



大正13年の七重塔心礎
心礎は直径1.8m、厚さ0.7m截頭円錐形で有ることが、この写真によってわかる。



市役所より高かった七重塔
上総国分寺七重塔は高さが63m以上で、市役所より高く、法隆寺五重塔の2倍近くもありました。